

監視カメラ20年間の変化

規格	アナログ	アナログ	アナログ (720H)	アナログ (960H)	HD-SDI (1080P)	AHD (1080P)
色彩	白黒	カラー	カラー	カラー	カラー (フルハイビジョン)	カラー (フルハイビジョン)
有効 画素数	25万画素	25万画素	38万画素	48万画素	200万画素	200万画素
録画機器	ビデオデッキ		ハードディスクレコーダー			

質カメラが登場し、主流となっています。導入する際の初期投資を見ても、20年前には防犯カメラ1台当たり10万円、防犯システムとして録画機器とカメラ16台を導入すると3百万円したこともありましたが、現在では同様の防犯システムで約90万円と、3分の1以下までコストが下がっています。

古い防犯カメラ・録画機器をご利用の書店様は、この2、3年で約4倍の画素数となった高画質防犯カメラを中心とする防犯システムへの移行をご検討いただき、ぜひ導入していただければと思います。

③ **新しい防犯カメラ導入のメリット**

新しい高画質カメラへの切り替え、導入のメリットとしては、やはり不審者の顔が鮮明に撮影できるようになり、人物の特定がしやすくなるのが挙げられます。不審者の顔がハッキリと特定できることで、別の店舗で被害届が出されていたケースと合致したために、実際に警察が巡回を強化してくれたり、窃盗犯を捕まえてくれたりすることも多くなっているようです。やはり高画質カメラを導入していることで、警察も「この書店はきちんと防犯対策している」という判断をされて、情報共有や連携の強化につながっていると言えるでしょう。

また、店内で窃盗犯を捕捉した時も、ハッキリとした映像があることから事後処理が迅速に進むというメリットもあります。

一方で、以前に比べて初期費用が格段に安くなっているとはいえ、やはり導入の際には「できるだけ安価なもの」というご要望があるのですが、価格の差は操作性などの運用面での差に直結することも確かです。

具体的には、安価なシステムでは詳細なタイムラインを追跡することができなかつたり、映像のバックアップの方法が煩雑であったりすることがあります。

弊社では、書店様に防犯システムをご提案する際にデモ機を持参して、ご担当者に操作

④ **最後に**

書店様が被る窃盗被害(万引き)を防止する一番のポイントは、やはり人だと思えます。商品を守るのも人ですが、それを防止する人も人であり、機械はあくまでも防止する人が効率よく動けるようにサポートをするものです。防犯カメラ・防犯ゲートも、窃盗を未然に防ぐことはもちろん、万が一窃盗被害を被ってしまった後に事後の処理をいかにスムーズに対処できるかということのサポートだと思います。

そのためにも書店のスタッフの皆様が「自分達が自店のロスを無くす」と思って取り組んでいただくことが重要です。

冒頭でも申し上げましたが、書店様が事業を継続していかれるために、弊社はお取引先から様々な情報を収集し、それを新たな機器やシステムとして書店様に提案・提供していきたいと考えております。ぜひ、ご検討いただき、お気軽にご相談ください。

さらに詳しい内容に関しては、弊社HP (<http://www.daiwa-book.jp/>) も参照ください。

〈寄稿〉

書店用関連機器メーカーが提案する「窃盗被害(万引き)対策」のポイント
最新の防犯カメラ・防犯システム導入について

ダイワハイテックス 店舗支援事業部 お客様相談係マネージャー

芝田心平氏



弊社ダイワハイテックスは、書籍用包装機「コミックシュリンカー」の製造・販売から始まった機械メーカーですが、現在では実店舗における業務効率化を実現するための機械や設備を提案することを目的に、防犯カメラや防犯ゲート・防犯タグなど防犯関連機器や資材の販売を手掛けています。

そうした中で、弊社はお取引先から様々な情報を収集し、書店様が事業を継続されるためにお手伝いできることは何かと常に考えております。

書店様にとって大変な時代と言われ続けていますが、現実的に書籍や雑誌の売り上げが減少している今、書店様が利益を確保するために万引きや内部不正によるロスを削減するということは重要なテーマだと思われま

す。この「万引きや内部不正などの不明ロス削減」のために弊社がおすすめる、防犯システムの導入についてのポイントを解説いたします。

① **提案からアフターフォローまで一貫体制**

弊社が取り扱う防犯カメラ・防犯システムは営業・提案から施工、アフターフォローまで一貫体制で提供しています。現在、防犯カメラもコストを重視したものから機能性を重視したものまで様々な種類がありますので、書店様のご希望に合わせてながら、弊社からも提案させていただきます。具体的には、現地調査を実施して最適な機器を選定、台数や設置場所を提案し、書店様のご希望との調整を進めていきます。

施工においても弊社が実施することで、実際に取り付ける段階になって

<p>現場調査</p> <p>出向し、現場を密に調査、お客様のご希望を直接伺いいたします。</p>	<p>図面提出</p> <p>ご希望の機器に沿って、配置・図面を提出いたします。</p>	<p>見積もり</p> <p>ご予算に合った金額を算出いたします。</p>	<p>施工</p> <p>弊社員が丁寧・ご希望があれば早朝・夜間にも臨機応変に対応いたします。</p>	<p>アフターフォロー</p> <p>導入後の機器の不具合も弊社スタッフが責任を持ってアフターフォローいたします。</p>
--	---	--	--	--

② **防犯カメラは飛躍的にパージョンアップ**

現在では防犯カメラの画素数のアップが進み、画質が良い防犯カメラ・録画機器に切り替わってきています。

書店様におかれましても、新規店では最新の画素数の防犯カメラ・録画機器を導入されていると思います。

ですが、長く経営を続けられている既存店では従来の古い防犯カメラ・録画機器をお使いになられている書店様も多いと思われると思います。

数年前まで防犯カメラは大体48万画素程度のものが主流でしたが、現在では200万画素の高画

質の違うを実際に体験していただくようにしていますので、コストと操作性を考慮して導入するシステムを検討・選択していただくことが可能です。

書店様が被る窃盗被害(万引き)を防止する一番のポイントは、やはり人だと思えます。商品を守るのも人ですが、それを防止する人も人であり、機械はあくまでも防止する人が効率よく動けるようにサポートをするものです。防犯カメラ・防犯ゲートも、窃盗を未然に防ぐことはもちろん、万が一窃盗被害を被ってしまった後に事後の処理をいかにスムーズに対処できるかということのサポートだと思います。

そのためにも書店のスタッフの皆様が「自分達が自店のロスを無くす」と思って取り組んでいただくことが重要です。

冒頭でも申し上げましたが、書店様が事業を継続していかれるために、弊社はお取引先から様々な情報を収集し、それを新たな機器やシステムとして書店様に提案・提供していきたいと考えております。ぜひ、ご検討いただき、お気軽にご相談ください。

さらに詳しい内容に関しては、弊社HP (<http://www.daiwa-book.jp/>) も参照ください。

